

# カリエロ11

サレジオ会  
宣教ニュース

N.120 - 2018年12月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



**受** 肉の神秘の観想は宣教師の目を、魂を、満たします：「すべてにおいて兄弟と等しい者となられた神の御子にならい、サレジオ会宣教師は、これらの国民がもつ長所を取り入れ、彼らと苦悩や希望を分かちあう。」(会憲第30条) イエス、ヨセフ、マリアが共にいてくださることが、すべてのサレジオ会員の内にある宣教師の心を作り上げ、力づけ続けますように！ 愛する兄弟会員、友人の皆さん、これが宣教部門から皆さんへ、クリスマスに贈る祈りです。

このクリスマスの準備の時は、宣教のための深い祈りの時にもなります。教皇ベネディクト十五世は、使徒的書簡「マクシムム・イルド Maximum Illud」で、勤めのうちに鋭く述べています。宣教地と宣教師たちのために、より意識を高め、より効果的に祈るよう求めています：「すべてのキリスト者は、祈りを通して、主のぶどう園で汗を流す福音の宣教師たちを助けなければなりません」。サレジオ会は特に、毎月の宣教の祈りの意向を示すことによって、また高齢・病気の会員の祈りによる積極的な宣教参加を通して、これを行っています。

使徒の女王、ベツレヘムのおとめマリアよ、私たちのために祈りください！

宣教顧問 ギジェルモ・バサニェス神父

## 南アジアのサレジオ家族の「第一次福音宣教セミナー」

聖パウロ六世は『福音宣教』で、教会は福音を宣教するために存在する、と教えています(『福音宣教』14)。2018年11月7日、8日にバンデルの大聖堂で開催されたサレジオ家族セミナーは、今日における第一次福音宣教に目を注ぎました。45名のサレジオ家族メンバーが参加しました(SDB, FMA, MSMHC, SMI, 弟子の会)。セミナーの主な目的は、サレジオ会のすべての地域におけるSDB-FMAの5年にわたる本テーマの研究の実りを分かち合うことでした。私たちはまた、このテーマに取り組むアニメーターをサレジオ家族のうちに育成したいと願いました。第一次福音宣教を、南アジアの福音化により実り豊かに貢献するものとするため、参加者はさまざまな提案を行いました。すべてをここに挙げることはできませんが、簡潔な要約を紹介します。



- 1. 一人ひとりのレベルの霊的成長における第一次福音宣教**  
深い個人の祈り、みことば、聖体を生きる生活を培う；マリアへの信心、マリアに倣うこと、読書とふりかえりを培う。
- 2. ダイナミックな喜びあふれるあかしを通しての第一次福音宣教**  
あわれみ深い者であること(イエスのように)；人を温かく迎える姿勢；すべての人と真摯な友情を培う。特に他の信仰をもつ人と。
- 3. 第一次福音宣教のための養成**  
カリキュラムに含めること・第一次福音宣教の極意；第一次福音宣教の経験を分かち合う。
- 4. 各管区において第一次福音宣教を広める**  
第一次福音宣教についての研修会やセミナーを企画する；管区レベルの定例の会合を活用する；このテーマに取り組むために協働者、特に若者を育成する。
- 5. 使徒職のあらゆる部門における第一次福音宣教**  
使徒職のあらゆる形において(学校、大学、職業訓練校、寮、小教区、ユースセンターなど)、第一次福音宣教が、司牧教育計画の優先事項であること；生徒や保護者と知り合うこと・家庭を訪問する、特に病気や困難、家族の死などの状況があるとき；サレジオの実践「耳元にささやく言葉」を再び活気づける。

- 6. ほかの宗教を信じる人々の中での第一次福音宣教**  
クリスマスなど、ほかの宗教の人々と共に祝うキリスト教の祭事を企画する；巡礼、民衆の信心、黙想会を奨励する；友情を表す家庭訪問。特に苦しみの中にあるとき；諸宗教対話を促進する。
- 7. 家庭における第一次福音宣教**  
家庭を宣教者、第一次福音宣教の担い手とする；信仰を離れてしまったカトリック信者が再び信仰を取り戻すように助ける；家庭の祈りを奨励する。
- 8. サレジオ家族における第一次福音宣教**  
在俗の視点を取り入れるため、サレジアニ・コオペラトリーや同窓生にも第一次福音宣教を勧める；このテーマに関わる、サレジオ家族のグループ間のネットワーク、協力を促進する；第一次福音宣教をテーマとする研修会を開催し、人々をキリストに惹きつける革新的な方法を発展させる；福音宣教を目標とする宣教グループを立ち上げ、第一次福音宣教に取り組むよう導く。

カリエロ11、宣教促進10周年おめでとう！



## 神は私たちを驚かせ、決して想像できないほどたくさんのもをくださる



**何**年も前の私は、いつの日かモンゴルで宣教師になっているとは、想像もしませんでした。私にとってエンジニアにならなければならないことははっきりしていて、せいぜい、ヨーロッパの無神論の国、チェコ共和国の中で宣教師になるだろうと思っていました。小学生、中学生のころ、私はクラスで唯一のカトリック信者でした。級友たちの前で私たちの信仰をあかしするのは簡単ではありませんでした。

プラハ大学で技術系の勉強を始めたころ、サレジオ会と出会いました。まだ共産主義の時代でした。まもなく私はサレジオ会の地下活動に参加するようになりました：「チャロウプキー」と呼ばれていた小さな夏のキャンプ、アニメーターの養成、聖書のかち合いのグループなどです。私は一步一步、電気エンジニアリングを後にしご自分に従うようにという神の呼びかけを発見していました。目に見えないけれども電気よりずっと力ある神に。

1993年、私はサレジオ会員となり、2002年に司祭になりました。ズリンのサレジオ会の教会で3年間奉仕した後、新たな責任をいくつか任せられました。

た：チェコ管区の宣教ボランティア活動の立ち上げ、アニメーターのための学校、召命促進、サレジオ青少年運動SYMです。それは、キリスト者の助け聖マリアのご保護と導きのもと歩んだ、全面的な奉仕の11年間でした。自分では決して想像できないほど大きなサレジオの世界を私は発見しました。

2014年、教皇フランシスコは最初の回勅『福音の喜び』を通して、思いがけず、しかしはっきりと、私の道を示してくれました：「出向いて行きましょう。すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向いて行きましょう」（『福音の喜び』49）。この言葉は、2015年サレジオ宣教の日のテーマ、「主よ、私をお遣わしてください」と共に、私の心を大きく揺さぶりました。それをチェコ語に訳すと、新たな召し出しが聞こえてきました：「もっと、ますます私にささげなさい」。私はこのことを管区長に話し、6か月間の識別の後、総長に手紙を書きました。

モンゴル人の伝統的な暮らしは遊牧生活です。牧草地の肥沃さに限りがあるため、年に何回か、家畜とユル（円形テント）と共に移動します。町に根を下ろした人々も、いまだに遊牧民のような考え方や行動の仕方をします。このことを理解するのは本当に挑戦です。

モンゴル語は世界で最も難しい言語の一つです。モンゴル語の基礎コースは2年に及びます。私たちの信仰の基本的な言葉を、シャーマニズムと仏教の伝統を汲む社会で理解されるようどのように表現したらよいか、私たちはいまだ模索しています。

この国で宣教師であることは、再び子どもになり、基礎から物事を学ぶということです。何度自分の限界に達したことか！ 謙遜と愛のうちに私は成長しなければなりませんでした。

私の最も大きな喜びの一つは人々の成長を目にすることです。それは毎日のように起こる出来事ではありませんが、共同体の中で、自分たちがよりよい理解に達したと感ぜられること、あるいは私たちが神に仕えていることに感動した子どもたちがいると、わかることがあります。主には主ご自身の働き方があります。主ご自身の時があります。それは一人ひとりの人によって異なるものです。何人かの生徒たちがオトリオのアニメーターになったとき、また多くの新たな子どもたちがドン・ボスコ・センターの私たちの活動に参加するようになったとき、それはすばらしい瞬間でした。しかし、最高の喜びは神の使命にあずかっていること、宝物の運び手であることです。私は日々、このことをますます新たに発見しています。

「今日、あなたたちが神の声を聞くなら、……心をかたくなにしてはならない」（ヘブライ人への手紙3・7-8）。私たち皆が、毎日、もっと神の呼びかけに開かれ、神との絆を深めるようにと私は願っています。神は私たちを驚かせ、決して想像できないほどたくさんのもをくださるのです。

チェコ共和国出身 モンゴルの宣教師 ヤロスラフ・ヴラコフスキー sdb



## サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエールイジ・カメローニ神父

福者 **アルテミデ・ザッティ**（1880 - 1951） サレジオ会修道士。ザッティ修士は、真剣な霊的献身、誠実な識別の過程、神と隣人に仕えたいという望みによって、ドン・ボスコの使命を自分のものとした。その召命は、ドン・ボスコの伝記を読んだこと、そして“心を奪う”サレジオ会員との友情から生まれました。そのサレジオ会員は小教区の司祭、カヴァッリ神父で、ザッティ修士にとって生涯を通しての模範でした。目上たちは、結核にかかったザッティ修士に、サレジオ会修道士として誓願を立てるよう勧めました。司祭であろうとなかろうと、ドン・ボスコのもとに留まりたいと自分が望んでいると気づくのに、長く考える必要はありませんでした。ザッティ修士は留まり、“coadjutor” 修道士の本来の召命を満ち満ちて生きたのです。

広報に奉仕する  
サレジオ家族のために



サレジオ会の宣教の意向



サレジオ会員とサレジオ家族が、広報という広大なアレオパゴスにおいて福音宣教の熱意と創造力をもつことができますように。

今日、かつてないほどソーシャルネットワーク、そして広報全体が文化を構築するようになっています。私たちが創意工夫、専門性、知性をもって、福音と私たちの教育的価値を通して、文化に影響を与えることができるよう祈りましょう。

Cagliari 11 (カリエロ11)の全バックナンバー：<http://salesians.jp/library/cariero>